

たけだトピックス①

作家の瀬戸内寂聴さんが 京都新聞に「九十二歳の闘病」手記 武田病院の治療や武田隆男会長へ 感謝の言葉をつづる

文化勲章受章者で作家の瀬戸内寂聴さんが『九十二歳の闘病』と題した手記を京都新聞に寄せ、2014年11月18日の朝刊1面などに掲載されました。寂聴さんは、腰部圧迫骨折で長年、痛みと闘いながら執筆や法話を続けていましたが、武田会長の勧めもあつて医

仁人会武田総合病院で手術を受けたところ、別のがんが見つかるなど半年近い闘病と武田病院グループなどへの感謝を綴っておられます。

きっかけとなったのは、2012年春、武田病院グループの広報・季刊誌『たけだ通信』が発刊100号記念を迎えるにあたり、寂聴さん、聖路加国際病院の日野原重明理事長と武田会長による鼎談です。

その際、寂聴さんが「脊柱管狭窄症で悩んでいる」と訴えられたので、武田会長は「私も2011年に、腰の複雑骨折で骨セメント手術を受け、すぐに歩けるようになりました」とアドバイスしました。

昨年春に、そのことを思い出された寂聴さんが、武田会長に治療の相談をされました。5月に医仁会武田総合病院で川西昌浩部長（脳神経外科）、横山邦生医長から骨セメント術と仙腸関節痛の治療を受け、積極的なりハビリで回

復に向かいました。

寂聴さんは手記の中で次のように綴っています。

「武田会長に痛みを訴えると、20分もしないうちに救急車が来て醍醐の武田病院に運ばれ（略）、圧迫骨折は、セメントを詰められ、あつという間に治してしまった（略）。そのうち、胆嚢にがんがあると発見された。手術するかどうかと訊かれ、私は即座に『取ってください』と答えた（略）。全身麻

酔で開腹ではなく、おなかに三つ穴をあけ、あつという間に胆嚢をそっくり引き出してくれた」と記しています。

京都新聞によると、瀬戸内さんは、日タリハビリに取り組むなど年内は療養に専念するが、「今回の寄稿を復帰になげたい」と仰っています。

武田会長はじめ当グループ一同、寂聴さんが元氣になり、作家活動に戻っていただくことを心より願い、ご支援させていただきます。

たけだトピックス②

動脈瘤治療のステントグラフト内挿術 医仁会武田総合病院で本格的に開始

大動脈瘤は全身に血液を送る大動脈の壁が動脈硬化などにより脆弱になり大きく膨らんでくる病気です。破裂するまで自覚症状はなく、胸背部痛や腰痛、腹痛などの症状が出た段階ではすでに破裂しており、死亡率も高いです。

治療の第一選択は人工血管置換術ですが、近年、未破裂の動脈瘤に対して血管の中から治療を行う「ステントグラフト内挿術」が普及してきています。

この手術では胸部や腹部を大きく切開することなく、太ももの付け根を4〜5cm切開したところから動脈内に

ステントグラフトといわれるばね状の金属を取り付けた人工血管を折りたたんで収納した管（シース）を挿入します。動脈瘤のある部位まで運んだところでシース内のステントグラフトを放出して動脈瘤の内挿します。放出されたステントグラフトは金属のばねと血圧によって広がり、血管の内側に張りつけられ、縫合することなく固定されます。大動脈瘤は切除されないため残りますが、ステントグラフトで覆われた瘤内には血流がなくなり、自然に小さくなる傾向がみられます。たとえ瘤が縮小しなく

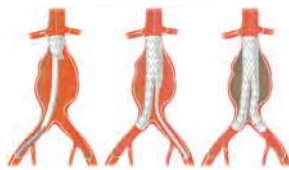


記事:京都新聞提供

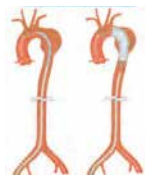


ステントグラフト用透視装置
(ハイエンドモバイル型デジタルイメージングシステム)

腹部大動脈ステントグラフト内挿術



胸部大動脈ステントグラフト内挿術



でも拡大を防止することで破裂の危険性がなくなります。しかし、ステントグラフトが何らかの原因でずれたり、隙間から血液が流入して瘤が拡大してきたときには従来通りの手術が必要になります。また、屈曲や蛇行が強い血管、主要な分枝と動脈瘤の間に隙間がない症例では使用できません。

ステントグラフトを動脈瘤がカバーできる正確な位置に留置するためには手術室の清潔な環境で使用できる高性能な透視装置が必要です。医仁会武田総合病院ではこのたび新たな透視装置を導入し、ステントグラフト内挿術による動脈瘤の治療を本格的に開始していきます。

インフォメーション

京都で先進医療推進フォーラムを開催 先端医療により拓かれていく 治らないとされた病気の治療

「先端医療 治らない病気への挑戦」をテーマに掲げる第2回先進医療推進フォーラムがJR京都駅の「京都劇場」で3月14日に開催されます。

主催は一般財団法人先進医療推進機構（AMPO）。広く国民が高度先進医療を享受できるように、医療業界並びに臨床現場への普及を図るとともに学会・研究会の運営を支援する団体です。当グループの武田隆久理事長は、同機構の理事（学術担当・WEBサイト事業担当）に就任しており、今大会の大会長を務めます。

これまで治らないとされた病気が、iPS細胞やウイルス療法などの先端医療で、どのように治療法が拓かれていくか、研究者の講演を通じ、京都から発信していくものです。

当日予定される演題は次の通りです。

- 「がん治療の革命・ウイルス療法」
藤堂真紀 教授
（東京大学医科学研究所 先端医療研究センター 先端がん治療分野）
- 「細胞シートを用いた心筋再生医療の未来」

先進医療推進機構・京都大学iPS細胞研究所共催シンポジウム
第2回 先進医療推進フォーラム 武田 隆久(武田製薬グループ理事)
第5回 CiRA一般の方対象シンポジウム

先端医療 ～治らない病気への挑戦～

参加費 無料
定員600名
（先着順）

講演者・演題

- 「がん治療の革命・ウイルス療法」
藤堂 真紀 教授
（東京大学医科学研究所 先端医療研究センター 先端がん治療分野）
- 「細胞シートを用いた心筋再生医療の未来」
澤 芳樹 教授
（大阪大学大学院医学系研究科 外科学講座心臓血管外科）
- 「iPS細胞が拓くこれからの医療」
山中 伸弥 教授/所長
（京都大学iPS細胞研究所 初期化機構研究部門）
- 「倫理の窓から見たiPS細胞」
藤田 みさお 准教授
（京都大学iPS細胞研究所 上廣倫理研究部門）

2015年3月14日(土)
13:30～17:00(開場13:00予定)

京都劇場
（京都駅前「中央改札」からすぐ）
京都府京都市下区丸太町小町下る 京都市役所内
券價900円 www.kyoto-theatre.com/

お申し込み先 先進医療推進機構 HP <http://ampo.jp> 京都大学iPS細胞研究所 HP <https://www.cira.kyoto-u.ac.jp>

お問い合わせ先
先進医療推進機構・京都大学iPS細胞研究所
共催シンポジウム事務局(株式会社インターグループ内)
〒531-0072 大阪市北区豊崎 3-20-1 インターグループビル
TEL: 06-6372-3053 FAX: 06-6376-2362
E-mail: ampo-cira2015@intergroup.co.jp

澤 芳樹 教授
（大阪大学大学院医学系研究科 外科学講座心臓血管外科）

■「iPS細胞が拓くこれからの医療」
山中伸弥 教授/所長
（京都大学iPS細胞研究所 初期化機構研究部門）

■「倫理の窓から見たiPS細胞」
藤田みさお 准教授
（京都大学iPS細胞研究所 上廣倫理研究部門）

お申し込みアドレス
https://tbwv.heteml.jp/ampo_cira2015/

お問い合わせ先
先進医療推進機構・京都大学iPS細胞研究所
共催シンポジウム事務局(株式会社インターグループ内)
〒531-0072 大阪市北区豊崎 3-20-1 インターグループビル
TEL: 06-6372-3053 FAX: 06-6376-2362
E-mail: ampo-cira2015@intergroup.co.jp

また、当日は京都大学iPS細胞研究所(CiRA(サイラ))が共催でシンポジウムを行います。